

取組が加速する

スーパーシティとデジタル田園健康特区。

スーパーシティ

茨城県つくば市

【実装する先進的サービス】



移動・物流分野

- ◆ 新型モビリティやロボットの本格導入
- ◆ ロボットやドローンによる荷物の配送



行政分野

- ◆ インターネット投票
- ◆ 外国人向け多言語での情報発信



医療分野

- ◆ マイナンバーを活用したデータ連携による健康・医療サービスの提供



防災・インフラ・防犯

- ◆ 効率的な避難誘導と避難所での医療連携
- ◆ インフラ長寿命化



デジタルツイン・まちづくり

- ◆ 3Dマップの作成によるデジタルツインの実現
- ◆ ロボットと共生する都市空間の創出



オープンハブ

- ◆ 外国人創業活動支援
- ◆ 大学の土地や施設等の貸付等

スーパーシティ

大阪府・大阪市

【実装する先進的サービス】



最適移動社会の実現

- ◆ 日本初の空飛ぶクルマの社会実装
- ◆ 自動運転バス(レベル4)による万博来場者の輸送
- ◆ 夢洲建設工事での貨客混載輸送、ドローンの積極活用



データ駆動型社会の実現

- ◆ AIによる気象予報
- ◆ 夢洲建設工事でのBIMデータ等の活用
- ◆ VR・MR技術の活用等による「未来の公園」



健康長寿社会の実現

- ◆ 国籍や場所にとらわれない先進的な国際医療サービス(外国人医師による診察、外国の医師による遠隔診療等)
- ◆ ヒューマンデータ、AIの活用による健康増進プログラムの提供

デジタル田園健康特区

石川県加賀市・長野県茅野市・岡山県吉備中央町

【実装する先進的サービス】



健康医療分野のタスクシフト

- ◆ 在宅医療における看護師の役割拡大
- ◆ 救急医療における救急救命士の役割拡大



健康医療情報の連携

- ◆ 健康医療情報の自治体を超えたデータ連携
- ◆ 健康医療情報の患者本人やその家族による一元管理(医療版「情報銀行」制度構築)



予防医療やAI活用

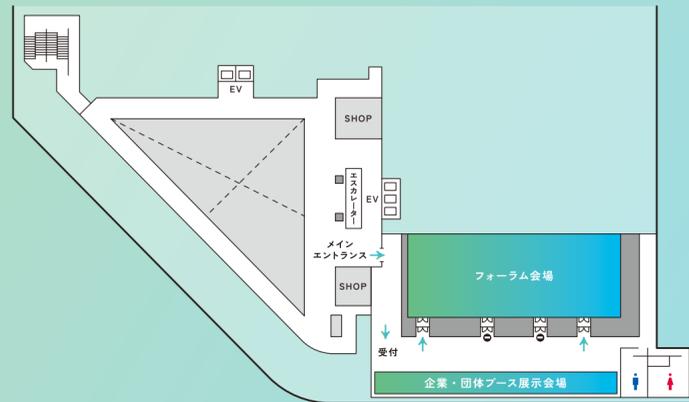
- ◆ AI、チャット機能を活用した遠隔服薬指導等



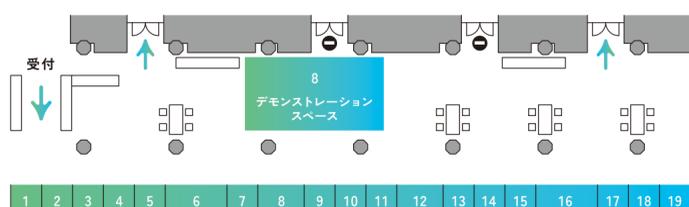
移動・物流サービス

- ◆ ボランティアドライバーによる通院送迎
- ◆ タクシー等を使った医薬品等の配送

会場フロア図



企業・団体ブース展示会場



- | | | | | |
|---------------------|------------------------------|-----------------------|--------------------------|---------------|
| 1 NTTグループ | 2 日本電気 | 3 日立製作所 | 4 凸版印刷 | 5 TXP Medical |
| 6 筑波大学(インクルーシブ・シティ) | 7 VOTE FOR | 8 三菱電機 | 9 関西経済連合会 | |
| 10 SkyDrive | 11 東京大学生産技術研究所インタースペース研究センター | 12 竹中工務店 | | |
| 13 日本総合研究所 | 14 清水建設 | 15 富士通 | 16 岡山大学・吉備中央町インクルーシブスクエア | |
| 17 GEヘルスケア・ジャパン | 18 森ビル | 19 藤田医科大学・富士フィルムメディカル | | |



【主催】内閣府

<https://supercitysmartcityforum2022.jp/>

お問合せ

スーパーシティ・スマートシティフォーラム事務局

supercity2022@jtbc.com.co.jp



SUPERCITY SMART CITY FORUM 2022

スーパーシティ・スマートシティフォーラム



開催日時

令和4年8月26日(金) 9:50~17:50

会場

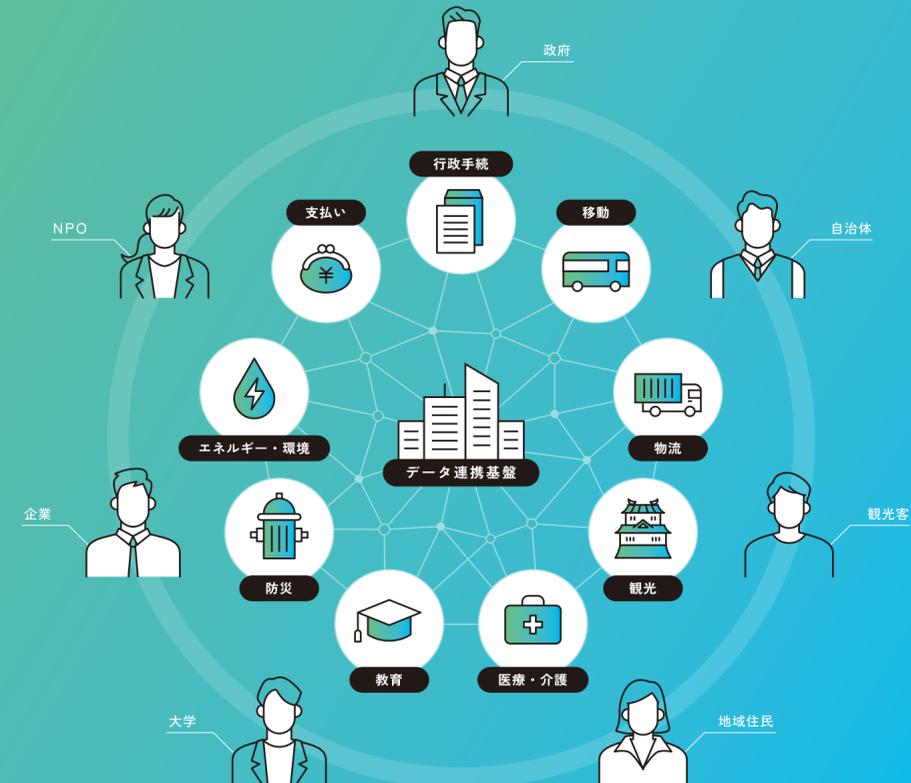
JPタワー ホール&カンファレンス
(東京都千代田区丸の内2丁目7-2 KITTE 丸の内4階)



構想から実装へ、 見えてきたスーパーシティ等の今。

AIやビッグデータ等の先端技術を活用し、地域のデジタル化と大胆な規制改革を行うことにより、世界に先駆けて未来の生活を先行実現する「まるごと未来都市」を目指す【スーパーシティ】、デジタル技術の活用によって、地域における医療、健康に関する課題に連携して取り組む【デジタル田園健康特区】。令和4年4月、茨城県つくば市及び大阪府・市がスーパーシティに、石川県加賀市・長野県茅野市・岡山県吉備中央町がデジタル田園健康特区に指定されました。これらの区域は、いずれも国家戦略特区として「デジタル田園都市国家構想」を先導することが期待されています。

今後、これらの区域において、データ連携基盤の整備や先進的サービスの実装が加速します。我々の暮らしはどのように便利になっていくのか。またそれを実現するため、課題をどのように乗り越えていくのか。自治体の首長や有識者、企業等が一堂に会し、最新の動向や思い描く未来を語ります。



自治体講演

10:00 - 10:20

【大阪府・大阪市スーパーシティ構想】

大阪府・大阪市スーパーシティ構想 ～グリーンフィールドのスーパーシティから始まる 未来社会をめざして～

スーパーシティは、規制改革とデジタル活用によって我が国の停滞を打破し、より良い未来へ導く強力なエンジンとなるものです。本年4月に大阪市はつくば市とともに全国で初めて指定を受け、未来社会を先導していくことをめざします。大阪のスーパーシティでは、2025年の大阪・関西万博の会場となる大阪のベイエリアに浮かぶ人工島・夢洲と、西日本最大のターミナルである大阪駅の北側において豊かなみどりの空間を形成するうめきた2期地区、2つのグリーンフィールドからデータで拡げる「健康といのち」をテーマに、住民QoLの向上と都市競争力の強化をめざし、大阪における輝く未来社会の実現に向けて取り組んでまいります。



吉村 洋文
大阪府知事
(ビデオメッセージでの参加となります。)



高橋 徹
大阪市 副市長

私たちが目指す社会

住民のQoL(Quality of Life：生活の質)向上と
都市競争力の強化を目的に、

- ① ストレスフリーな最適移動社会【モビリティ】
- ② 豊かに暮らす健康長寿社会【ヘルスケア】
- ③ 活力にあふれるデータ駆動型社会【ビジネス・イノベーション】
の実現を目指します。

10:20 - 10:40

【つくばスーパーサイエンスシティ構想】

つくば市が目指す「まるごと未来都市」 - つくばスーパーサイエンスシティ構想 -

筑波研究学園都市の建設が閣議了解されてから約60年。これまで、日本を代表する科学技術都市としての強みを活かし、リビングラボからインターネット投票、モビリティ・ロボットの活用等の先端的な取り組みを数多く生み出してきました。これらの未来技術の社会実装に向けて、スーパーシティ型国家戦略特別区域に指定されたつくば市が、大学・国立研究機関、企業、市民とともに、規制の特例措置等を駆使し、「サイエンスシティ」から「スーパーサイエンスシティ」への飛躍に挑戦する「つくばスーパーサイエンスシティ構想」について紹介します。

私たちが目指す社会

- ① 人々に移動の自由と、健康な自立を提供し、中心部・郊外の隔たりなく、安心して暮らせる社会を実現します。
- ② 人生の各段階に応じた最適な行政サービスを提供し、弱者にやさしい、多文化共生の社会を実現します。
- ③ 研究機関との連携によってイノベーションを加速すると同時に、安全で持続可能な都市空間の提供により、都市の活力を向上させます。

有識者講演

10:50 - 11:10



阿曾沼 元博

順天堂大学
情報センター本部 客員教授



特区の新類型 /Virtual 特区 デジタル田園健康特区

デジタル田園健康特区の3地域においては、医療のタスクシフトによる救急医療や在宅医療の質的な高度化を図る試みと共に、健康・医療情報共有基盤構築に資する実証実験も実施する予定です。本特区では、電子カルテデータ、PHRデータやライフログデータ、健診データ等の行政関連データなど幅広い分野の情報共有基盤構築のプロトタイプを示すことを目的としています。今回は国が牽引するHL7FHIRでの電子カルテ情報共有構想とも平仄を合わせており、この先駆的実証実験は、我が国の課題となっている「健康・医療情報の標準化と共有化をベースにデータの利活用環境を整備」することに、必ずや寄与すると確信しています。

11:30 - 11:50



須田 万勢

諏訪中央病院 医師/
茅野市 DX推進幹



規制緩和とDXを目指す、 地域医療CHINOモデル

デジタル技術を活用した「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」の波は地域医療にも押し寄せています。一方で、真にDXを進めるためには、まず医療に関わるそれぞれの職種が持つ「役割」の壁を壊し、現場のリソースの最適化を図る「アナログ・トランスフォーメーション(AX)」を進めることが重要です。茅野市のデジタル田園健康特区における提案は、地域医療の現場で利用者のニーズに基づいて「役割」の規制を整理しつつ(AX)、その整理の過程で起こりうるペインを「先取り」してDXするものです。人口減少時代において様々な職種が「30人31脚」で繋がり合う、全体最適化社会を目指します。

11:10 - 11:30



那須 保友

国立大学法人岡山大学
理事・副学長



デジタル田園健康特区において アカデミアが果たす役割とは

岡山大学は、全国初となる革新的事業連携型国家戦略特区(デジタル田園健康特区)に採択された岡山県吉備中央町と、広範囲な地方創生及び人材育成、並びにSDGsの達成を目指す連携・協力に関する協定を締結しております。デジタル技術の活用により、医療や健康分野において日本各地の地域が抱える課題(救急体制の充実、母子健康促進支援サービスなど)を規制改革により解決することを通じて、「地域課題の解決における先駆的モデル」構築を目指します。『専門知』を融合させた新たな「総合知」を駆使したオール岡山大学体制、そして強固な産学連携により、安全・安心で、誰一人取り残さないまちづくりに貢献してまいります。

11:50 - 12:10



鈴木 健嗣

国立大学法人筑波大学
システム情報系 教授/
サイバニクス研究センター長



大学・国研連携型 スーパーサイエンスシティの挑戦

Society 5.0の未来社会とは、人々が快適な生活を送り多様な幸せを実感できる社会的包摂性を備えた「人を中心としたヒューマン・スマートシティ」です。移動・配送を支えるモビリティ技術、医療福祉や行政分野のDX技術、現実空間と都市のサイバー空間の融合複合に加え、行政・民間企業が持つ社会科学的データを活用し、データを民主化するデータ連携基盤の構築を一体的に行うものです。ここでは、大学や国研が有する基礎研究成果の社会実装とともに、科学的手法により都市の実問題を浮き彫りにし、それを基礎研究に還元させるスパイラルを構築する大学・国研連携型スーパーシティの実現への取り組みについて議論します。

企業講演

13:00 - 13:20

NEC

受川 裕

日本電気(株)
執行役員
クロスインダストリーユニット担当



スマートシティの社会実装に向けた NECの取り組み

NECは「世界に誇れる『地域らしい』まちの進化」をビジョンに掲げ、都市OSを中心としたデータ連携・利活用によって新たな価値を創造し、地域課題を解決するスマートシティの実装に向けて、様々なステークホルダーの皆さまと一緒に推進しています。今回は、当社の目指すビジョンのもと地域課題解決/経済基盤活性化/住民QOL向上の3つのテーマを軸とした、国内外でのスマートシティの社会実装への取り組みについてご紹介します。

14:30 - 14:50

FUJITSU

堤 浩幸

富士通(株)
執行役員
SEVP Japan リージョンCEO



Fujitsu Uvance で実現する 豊かな社会

富士通は「イノベーションによって社会に信頼をもち、世界をより持続可能にしていこう」というパーパスの実現を目指し、事業ブランド「Fujitsu Uvance」のもと、サステナブルな世界の実現に向け、社会課題の解決にフォーカスしたビジネスを推進しています。本フォーラムでは「Fujitsu Uvance」のコンセプト、デジタルテクノロジーで支えるスーパーシティ・スマートシティとして目指す姿をご紹介します。また、現在進めている具体的な取り組みとして、「吉備高原都市スーパーシティ構想」での当社の貢献についてご紹介します。

16:10 - 16:30

SKYDRIVE

佐藤 剛裕

(株)SkyDrive
取締役 COO



空の移動革命への挑戦 ～日本発空飛ぶクルマと物流ドローンの開発～

SkyDriveは「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに、日常の移動に空を活用する未来を実現するべく、「空飛ぶクルマ」と「物流ドローン」を開発しています。「空飛ぶクルマ」は、国内で唯一有人飛行試験を実践し、2025年大阪ベイエリアからのサービス開始を目指しています。「物流ドローン」は、山間部の作業現場で既に活用されています。空を日常的に活用する2つのプロダクトの開発状況やユースケース、目指す未来についてお話しします。

13:20 - 13:40

NTT

工藤 晶子

日本電信電話(株)
取締役執行役員
新ビジネス推進室長



NTT グループのサステナブルで Well-being な未来のまちづくり

NTTグループでは、サステナブルでWell-beingなまちづくりをめざし、スマートシティに取り組んでいます。地域・住民の幸せ(Well-Being)の最大化を目的とした、パートナーのみならず未来のまちづくりを推進するプログラムのご紹介と、IOWN技術(これまでの情報通信システムを革新し、現状のICT技術の限界を超えた新たな情報通信基盤の実現する技術)を活用した地域課題解決の取組事例をご紹介します。

14:50 - 15:10

FUJIFILM

山田 光一

富士フイルム富山化学(株)
感染症戦略部・常務執行役員



スマートシティ：医用画像解析システムにおける AI技術の応用の場として

FUJIFILMは、第1回ノーベル物理学賞授与されたX線を使った医用画像診断に長年取り組んでまいりました。デジタルにより加工が容易になり、現在は断層画像から三次元画像を描出し解析を行うシステムを手掛けております。データインテグレーションとAI技術を活用し、診断から治療、さらに患者様への説明に役立つ解析結果の提示を日々目指しております。スマートシティへの取り組みとして「ビジョン・課題フォーカス」に重点を置き、現場の課題解決に貢献する取り組みをmedical imaging分野で行っていることを具体的にご紹介させていただきます。

16:30 - 16:50

公益社団法人 関西経済連合会

藤野 研一

(公)関西経済連合会
都市創造専門委員会 ワーキンググループ座長
(関電不動産開発株式会社 代表取締役社長)



「夢洲コンストラクション」から始まる 関経連の夢洲まちづくりへの取り組み

大阪のスーパーシティ構想は、夢洲での「大阪・関西万博」、万博工事への取り組み「夢洲コンストラクション」、うめきたでの「2期開港」の3分野から構成されています。「夢洲コンストラクション」は、万博工事に工事車両の深刻な交通渋滞が懸念されている夢洲で、データ連携基盤を活用した複数事業者間でのデータ共有や、ドローン等最新技術の活用等により工事を円滑に進めていく取り組みであり、関経連が関係各所と連携して検討を進めています。万博工事から始まる夢洲まちづくりについて、関経連の取り組みをご紹介します。

13:40 - 14:00

HITACHI

永野 勝也

(株)日立製作所
取締役専務
社会ビジネスユニットCEO



サステナブルなまちづくりに向けて ～デジタルによるサービスの高度化～

日立は協創とデジタルイノベーションで社会課題を解決する社会イノベーション事業を通じて、スマートシティの実現に貢献しています。スマートシティ実現に向けた取り組みの中で、デジタルとデータがどのように利用され、価値を生み出しているのかを事例を交えてご紹介し、期待されるスマートシティ・サービスの未来像を展望します。

15:20 - 15:40

SHIMIZU CORPORATION 清水建設

正岡 良隆

清水建設(株)
特別理事
スマートシティ推進室 室長



建物OS・都市OSを基盤とした あたらしまちづくり

清水建設は豊洲にて、スマートシティ推進の核となる都市デジタル基盤と、それを活用したサービス分野の拡充に取り組んでいます。都市デジタル基盤では、建物からリアルタイムに収集するIoTデータなどを統合制御する、スマートフォンのOSのような建物OS(商標名「DX-Core」)と、都市OSが重要な役割を果たします。それらを活用したサービスの可能性をはじめ、フィジカル/サイバーの高空間を創造する企業体「デジタルゼネコン」を目指す、清水建設が考えるまちづくりの紹介をさせていただきます。

17:00 - 17:20

TOPPAN

柴谷 浩毅

凸版印刷(株)
執行役員 DXデザイン事業部長
兼 技術戦略室部長



住民目線で地域に行動変容を起こす ～DXサービスがもたらすWell-Being～

真のスマートシティの実現を目指して、トッパンは事業活動を通じて、地域に行動変容を起こし、地域経済を活性化させる取り組みを推進しています。自治体と地域住民とのコミュニケーションを円滑にする住民ポータルアプリや、地域経済の活性化に貢献するキャッシュレス決済基盤など、その地域に住む人の目線に立ち、現場の課題を解決するDXサービスを提供することで「心豊かな暮らし」(Well-Being)と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability)の実現を目指しています。

14:10 - 14:30

日本総研 The Japan Research Institute, Limited

東 博暢

(株)日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
プリンシパル



スマートシティ推進による 事業創出について

我が国では、地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起し、地方と都市の差を縮めていくことで、世界とつながる「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け取り組みを進めております。本講演では、先進的な地域におけるスマートシティ政策や官民連携による事業創出のアプローチ等、具体例を紹介すると共に、今後産業界が分野領域を問わずデジタル田園都市構想やスマートシティにマルチステークホルダー・プロセスでどのように関与するべきかのポイントについてお話いたします。

15:40 - 16:00

TAKENAKA

村上 陸太

(株)竹中工務店
常務執行役員



“ひと”に寄り添い“まち”を変える “つくる”“つかう”から“つなぐ”へ

私たちの目的は、スマートシティではなく、それを舞台として社会課題を解決し、“ひと”の快適な生活空間“まち”をつくる事だと思えます。そのためには、つくるDXで建築のスマート生産とし、つかうDXで建築をスマートビル化するだけでなく、まちとつなぐ・仲間とつなぐ事で、社会課題に挑戦する事が重要です。私たちが本当につくりたいものは、ひとと空間・ひととデジタル・ひとと地球の新しい形を実現すること。それをwith TAKENAKA。我々と一緒に考えませんか？

17:20 - 17:40

MITSUBISHI ELECTRIC

水落 隆司

三菱電機(株)
執行役員
ビジネスイノベーション本部 副部長



機能的価値から意味的価値へ ～スマートシティが真に求める価値の創出に向けて～

役に立つ最新のテクノロジーにあふれた便利な街には「機能的価値」の追及が重要です。しかし、これからの人中心のスマートシティには、共感や感動に代表される「意味的価値」を加えていくことが大切ではないでしょうか。機能的価値に加え、意味的価値の創出を目指す三菱電機の取り組みについてご紹介します。